



「長崎原爆の日」(2019)

「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」

長崎被爆74年 平和宣言 核廃絶へ「声上げよう」



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で放たれたハト
=9日午前、長崎市の平和公園

◎記事から読み取ろう

○最も主張したい部分を抜き出そう。
・田上富久市長の平和宣言

・安倍晋三首相のあいさつ

核廃絶へ「声上げよう」
禁止条約批准求める

長崎は9日、被爆から74年を迎えた。長崎市松山町の平和公園で令和最初の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が営まれ、田上富久市長は平和宣言で、核廃絶の実現へ「声を上げよう」と市民社会に連帯を促した。さらに「日本は核兵器禁止条約に背を向けている」と批判。一刻も早く署名し批准するよう、政府に強く求めた。

□2、15、23面に関連記事

安倍晋三首相はあいさつで、核なき世界実現への努力を続けることは「わが国の使命」と述べた。ただ、核禁止条約には触れなかった。広島市の松井一実市長も、6日の宣言で田上氏と同様の条約参加要求をしており、被爆地との隔たりが改めて鮮明となった。平和宣言で田上氏は、17歳の時に長崎で被爆した山口カズ子さん(91)の詩を紹介。核がもたらす生き地獄を繰り返してはならない」という被爆者の思いを代弁し、長崎を最後の被爆地にするとの決意を示した。核超大国の米国とロシアが核の近代化を推し進める中、核廃絶に向けた人類の努力が次々と破壊され「核兵器が使われる危険性が高まっている」と懸念を表明。核兵器を大幅に削減する具体的道筋を示すよう、両国に要求した。原発事故からの復興を目指す福島を応援する姿勢も示した。

語り部活動を続けてきた

長崎市の山脇佳朗さん(85)は、被爆者を代表して「平和への誓い」を朗読。首相に「米国に追従することなく、核廃絶の毅然とした態度を示して」と迫った。首相は式典後の記者会見で、核廃絶に向けた世界の取り組みを主導する意欲を示した。ただ、核禁止条約を保有国が反対している。国際社会に一層の分断をもたらしている」とした。式典会場には約5200人が参列。原爆投下時刻の午前11時2分、黙とうをささげた。核保有国を含む66カ国のほか、国連や欧州連合(EU)の代表者らも出席した。

長崎市が7月末までの1年間で新たに死亡を確認した被爆者数は、国が定める地域外で原爆に遭った「被爆体験者」を含め、計3402人。原爆死没者名簿への記載総数は、18万2601人となった。

厚生労働省によると、被爆者健康手帳を持つ人の数は、3月末時点で14万5844人。平均年齢は82・65歳。

・山脇佳朗さん(被爆者代表)

(佐賀新聞 2019.8.10 付)

平和への誓い 要旨
被爆者代表 山脇佳朗さん



「平和への誓い」を読み上げた9日午前、長崎市の平和公園
被爆者代表の山脇佳朗さん

なりません。日本が「平和憲法」を守り続け、戦争や核兵器のない世界を実現する指針的な役割を果たせる国にならなければなりません。【最終節は英語。長崎安部総理にお願いした市提供の訳は次の通り】
被爆者が生きているうちに、核保有国に核廃絶を働き掛けてください。米国に追従することなく核廃絶の毅然(きんぜん)とした態度を示してください。私も死ぬまで訴え続けます。

1945年8月、私は賀へ疎開して難を免れましたが、父は爆心地から500mの工場に爆死していました。兄弟3人、母と4人の弟・妹は佐人での遺体を察知(さつち)が流れ出したのです。私たちは父の遺体を見捨ててしまいました。家族や身内を亡くした人々を同じように無残な体験をしなければならなかったのです。生き残った人々は熱線による傷や放射能による後遺症に悩まされながら生きていかねば

7月末までの1年間で死亡が確認された人は _____人
原爆死没者名簿への記載総数は _____人
被爆者健康手帳をもつ人の数は _____人
平均年齢は、 _____歳

◎「原爆の日」に寄せて考えたこと・思ったことを話し合おう。